

名前 () 日づけ (/) できた数 (/28)

使い方 書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます (⑦「不蔓不枝」だけは白文のまま。設問で書き下しを問います)。この文章の山は「蕃し・鮮し・宜なるかな」の読み、⑨の「可～而不可～」、そして菊・牡丹・蓮の三つのたとえです。

あらすじ＝水中や陸上に咲く花で、愛されるものは数多い。晋の陶淵明はただひとり菊を愛し、唐より後の世の人々は牡丹を好む。しかし作者はただひとり蓮を愛するという。蓮は泥水から生え出ても染まらず、清らかな波に洗われてもあでやかになりすぎず、茎は中が通り外はまっすぐ、つるも枝も出さず、香りは遠くまで清らかに届き、すらりと立つ。遠くから眺めることはできても、そばで手に取ってもあそぶことはできない。作者は、菊を隠者、牡丹を富貴の人、蓮を君子にたとえ、菊を愛する話は陶淵明より後に聞かず、自分ほど蓮を愛する者はどれほどいるか、牡丹を愛する者が多いのはもっともだ、と嘆く。富貴をもてはやす世の風潮をしりぞけ、泥に染まらぬ蓮＝君子の生き方こそ理想だと静かに述べた文章です。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

水陸草木（すいりくさうもく）の花、愛すべき者^①甚（はなは）だ蕃し。晋（しん）の陶淵明（たうゑんめい）、^②独（ひと）り菊を愛す。^③李唐（りたう）より来、世人（せいじん）甚だ牡丹（ぼたん）を愛す。

予は独り、蓮の^④淤泥より出（い）でて染（そ）まらず、^⑤清漣（せいれん）に濯（あら）はれて妖（えう）ならず、^⑥（なか）通（つう）じ外（そと）直（なほ）く、^⑦不蔓不枝、^⑧香遠（とほ）くして益清（きよ）く、亭亭（ていてい）として淨（きよ）く植（た）ち、^⑨遠觀（ゑんくわん）すべくして褻翫（せつくわん）すべからざるを愛す。

^⑩予謂（い）へらく、^⑪菊は花の隱逸者（いんいつしや）なり、牡丹は花の富貴者（ふうきしや）なり、^⑫蓮は花の君子者（くんし）なり、^⑬陶（たう）の後（のち）聞くこと鮮し。蓮の愛は、^⑭予に同じき者何人ぞ。牡丹は、^⑮宜なるかな衆（おほ）きこと。

語注 水陸草木＝水の中や陸の上に生える草や木。晋＝中国の王朝の名。李唐＝唐王朝。皇帝の姓が李であつたのでこう呼ぶ。世人＝世間の人々。予＝わたし。清漣＝清らかな波。澄んだ水。亭亭＝すらりと高く、まっすぐに立つさま。植＝立つ。隱逸者＝俗世間を避けて隠れ住む人。隠者。富貴者＝財産があり身分の高い人。者＝学問と徳を身につけた立派な人。噫＝ああ。嘆きを表す感動詞。※本文中の「不蔓不枝」だけは、設問⑦で書き下し文を問うため、白文（原文）のまま示していき※書き下し方は教科書によって差があります。「菊の愛は」を「菊を之（これ）愛するは」と読む本もあります。お使いの教科書に合わせてください。

(1) ①「甚(はなは)だ蕃し」の「蕃し」の読みを平仮名で書き、意味も書け。

(2) ③「李唐(りたう)より来」の「より来」の読みを平仮名で書き、意味も書け。

(3) ④「淤泥より出(い)でて染(そ)まらず」の「淤泥」の読みと意味を書け。

(4) ⑤「清漣(せいれん)に濯(あら)はれて妖(えう)ならず」の「妖なり」の意味を書け。

(5) ⑧「香遠(とほ)くして益清(きよ)く、亭亭(ていてい)として淨(きよ)く植(た)ち」の「益」の読みと意味を書け。

(6) ⑨「遠觀(ゑんくわん)すべくして褻翫(せつくわん)すべからざる」の「褻翫」の読みと意味を書け。

(7) ⑬「陶(たう)の後(のち)聞くこと鮮し」の「鮮し」の読みと意味を書け。

B 句法 (8～13)

(8) ⑦「不蔓不枝」は、本文の中でここだけ白文(原文)のまま示してある。書き下し文に直し、意味も書け。

(9) ⑨「遠觀(ゑんくわん)すべくして褻翫(せつくわん)すべからざる」に使われている句法を説明し、「べし」「べからず」がそれぞれ何を表すかを書け。

(10) ⑩「予謂(い)へらく」の読みを平仮名で書き、この語がどこまでを受けているかを、あとにある語を示して答えよ。

(11) ⑪「菊は花の隱逸者(いんいつしや)なり」に使われている「は…者なり」の形は、どのような意味を表すか。

(12) ⑭「予に同じき者何人ぞ」の「何人ぞ」の読みを平仮名で書き、意味・用法も書け。

(13) ⑮「宜(よ)なるかな衆(おほ)きこと」の「宜」の読みとここでの意味を書け。また、この字が再読文字として使われるときの読みも書け。

C 主語・指す内容 (14～17)

(14) ②「独（ひと）り菊を愛す」の主語は誰か。

(15) ⑥「中（なか）通（つう）じ外（そと）直（なほ）く」は何について述べたものか。また「中」「外」はそれぞれ何をさすか。

(16) ⑩「予謂へらく」の「予」とは誰のことか。

(17) ⑬「陶（たう）の後（のち）聞くこと鮮し」の「陶」とは誰のことか。また、何を「聞くこと鮮し」と言っているのか。

D 口語訳 (18～21)

(18) ①を含む「水陸草木の花、愛すべき者甚だ蕃し」を口語訳せよ。

(19) ④⑤を含む「蓮の淤泥より出でて染まらず、清漣に濯はれて妖ならず」を口語訳せよ。

(20) ⑧「香遠くして益清く、亭亭として淨く植ち」を口語訳せよ。

(21) ⑮を含む「牡丹の愛は、宜なるかな衆きこと」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (22～25)

(22) ④「淤泥より出(い)でて染(そ)まらず」は蓮のどのような様子を表し、それは人間のどのようなあり方をたえているか。

(23) ⑨「遠観(ゑんくわん)すべくして褻翫(せつくわん)すべからざる」は、蓮のどのような品格を表しているか。

(24) ⑪「菊は花の隠逸者(いんいつしや)なり」に続けて、作者は牡丹と蓮を何にたとえているか。三つの花の対応をすべて書け。

(25) ⑫「蓮は花の君子者(くんししや)なり」と⑮「宜(よろ)なるかな衆(おほ)きこと」をふまえて、この文章の主題を四十五字以内で書け。

F 文学史・思想 (26～28)

(26) 『愛蓮説』の作者名を漢字で書き、読みも平仮名で書け。またどの王朝の人か。

(27) 題名にある「説」とは、どのような文章の形式か。

(28) ②「独(ひと)り菊を愛す」の陶淵明とは、どのような人物か。時代と、菊との関わりにふれて書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①読みで落とすのは①「蕃(はん)し」⑬「鮮(せん)し」⑮「宜(よろ)」の三つ。どれも送り仮名しか付かない字で、音読み(はん・せん・ぎ)では読まない。読みと意味をセットで書けるようにしておく。 ②三つの花のたとえは入れかえて問われる。「菊は花の○○者なり」の三つを、陶淵明＝菊、世の人＝牡丹、作者＝蓮という人の対応までつなげて言えるようにしておく。 ③句法の山は⑨「可(よ)く～而(しか)し不可(よ)く」。白文は「可遠観而不可褻翫焉」。「而」をはさんで可(～できる)と不可(～できない・してはならない)が対比される形で、それがそのまま蓮＝君子の気高さになる。